

文献センター通信

第8号
2008年10月10日
一部100円

アナキズム文献センターの総会
を開きます。

2006年の7月、第2回富士宮集会において、文献センターの正式な設立と規約を決定しました。総会は、その規約第9条に記載してあるもので、最低3年に1回開かれます。今回はその第1回で、設立から2年と数ヶ月で開催することとなりました。これまでの文献センターの活動を会員の方々に報告し、またこれからの活動についての話し合いを持つものです。

当文献センターには運営委員会と総会とがあります。運営委員会
日時 2008年12月6日(土)

第1回総会を開きます

は毎月、東京で開かれています。議事録は「文献センター通信」に掲載され、またメーリングリストに流しています。最近

はメーリングリストに流れないこともありませんが、とにかく月に一度のペースを崩すことなく、各作業部会の活動を交え続けています。

総会では運営委員会から、これまでの活動、今後の方針の報告を予定しています。また、総会後には懇親会を予定しています。

総会は全会員により構成されます。多くの方の参加をお願いいたします。

主な内容	
第1回総会のお誘い	1
法人化の延期について	1
スイスCIRA訪問記	3
文献センター自己紹介	4
フジモト文庫・目録	6・7
運営委員会議事録	8

午後2時半開場

会場 東京都新宿区(予定)

総会 午後3時開始

活動報告・会計報告・事業計画

提示、検討・承認

早急な法人化・株式会社化は延期します

他の手段で所有関係を明確に

○法人化を延期する理由

2005年7月以降、3年以上にわたってNPO法人、合同会社、株式会社と、アナキズム文献センターの法人化案を検討してきましたが、当面の間、法人化を延期することとなりました。

アナキズム文献センターを株式会社とすること自体は、定款案も

プレゼンテーション(文献データベースの現状)など
懇親会 午後5時半開始

事前の申し込みをお願いいたします。現時点では会場の確保が済みません。Eメールまたは郵便でお申し込みください。決定次第ホームページにて発表するとともにメールで連絡する予定です。

作成済みであり、実行しようとするればすぐにも可能です。立ち上げ時に必要な資金もある程度は集まる見通しも立っていました。しかし、法人化しても後に、その継続を維持するだけの資金が不足することが確実であり、その懸念を払拭できないことが、法人化を見送らざるを得ない理由の一つとな

りました。

どのような組織であっても、その運営を行なうためには最低限の資金が必要です。会社組織であれば利益が出なくとも、少なくとも年間7万円の事業税が必要となります。文献センターの主な収入源は皆様からの年会費です。また、各種イベント等によってもいくらかの収入を得てきました。しかしながら、この事業税を払い、さらに法人としての活動を行なうための諸経費を捻出するには不十分と言わざるを得ませんでした。

法人化すれば、それに伴うさまざまな事務的作業を行なわなければなりません。そのためには事務所の開設と維持、連絡先としての固定電話等の敷設と維持、継続的に事務作業を行なうための人材の確保等々が必要であり、このいずれについても費用が発生します。現時点では、その費用に見合う収入源が残念ながら見込めませんで

した。

資金面での不安だけでなく、文献センターの事務作業を担う人材の不足も法人化を見送る理由の一つとなりました。「君達がいるではないか!」とは思わないでください。熱意だけで行なえる範囲は限られています。事務処理のような拘束時間の長い作業に対しては、適正な報酬を払い続けることよってのみ、あるいは、そのような制度を組織として築き上げることよってのみ、安定的で恒常的な人材の確保が行なえるのである。「文献センター」の日常的な運営が支障なく行なえることとなるでしょう。

つまり、継続的な利益を生み出すことのできる「株式会社アナキズム文献センター」の運営モデルを確立しない限り、拙速な法人化は成功することなく、確実に行き詰まることになると思われます。

残念ですが、以上の理由によってアナキズム文献センターの法人化は延期されました。社会的信用、事業の継続性、財産の法的な保全等々を考えた場合、アナキズム文献センターの法人化は今でも必要です。しかし、現実はその可能としていません。将来、確固とした経済的な基盤が確立されようとしたとき、再び、法人化を検討し始めることとします。

○公正証書を作成して所有関係を明確化する

当面の間は現在の形態である「任意団体」として「アナキズム文献センター」は活動を続けていきます。とはいえ、法人化が必要であるとの意見が出されたのは、文献センターの財産である書籍等の法的な所有関係が明確でなく、世代交代を迎えつつある文献センターの継続に支障が出かねない恐れがあったためです。

それゆえに法人化を急ぐ必要性

が生じたのですが、法人化の目的が立たない今、それに代わり得るものとして、「個人から個人へ所有関係を移譲したことを公正証書として作成しておけば、法的な所有関係を明確にできるのではないか」との案が出てきました。

すなわち、「富士宮のRさんは、所有していた文献センターの全書籍を、文献センターの現在の代表者たるOさんに移譲した。文献センターの全書籍とは、……である。そして、現在の所有者たるOさんは、文献センターの全書籍を、Rさんとの契約の上で、Rさん所有の建物に保管してもらっている」というような内容の契約書を公正証書として作成するという事です。文献センターが法人となったときは、Oさんが所有している全書籍を文献センターに寄贈することとすればいいでしょう。

公正証書の文言については、司法書士や行政書士などと相談へ

ローザンヌのCIRAを訪問

成田圭祐

今年の3月に、スイス・ローザンヌのCIRAを訪問した。

ヨーロッパ8カ国の25都市をまわり、各地の自主管理スペースやスクワットで、今年の7月に行われた反G8行動への参加/連帯行動の組織を呼びかける「インフォツアー」の中での訪問であった。

ツアーに発つ前に、CIRAを管理するマリアンヌとはあらかじめ連絡を取り合っていた。前日にやり取りしたメールでは、駅まで車で迎えに行くから、とのことだったが、マリアンヌは来れず、代わりにAという地元の若い活動家が迎えに来てくれた。

CIRAは、ローザンヌ駅からバスでうねうねと20分ほど上って、降りたバス停から横道に少し入った閑静な一画にある。敷地に入ると、広々とした庭があつて、

大きな杉の木の隙間から2階建ての建物が見える。横長の建物の左側がCIRA

のライブラリーや事務所で、右側のほうにはマリアンヌやその他数人が居住している。CIRAのライブラリーの入り口には、CIRAと書いた小さな木の表札がついている。

マリアンヌが歓迎してくれ、一休みしたあと、CIRAを案内してもらった。一階の20〜25畳ほどの部屋には、世界各地から集められたアナキズム関係の本がずらりと並ぶ。図書館のような受付が入り口すぐ左手にあり、きちんと管理・整理され、古い本もいい状態で本棚に並んでいた。日本語の本は20冊ほどあった。

2階には、新聞・映像資料・ピラ・ポスターなどが保管されている。ピラも、一枚一枚封筒に入れて番号をつけられ、丁寧に保管されている。日本のアナキズム

関係の新聞も多くあつたが、70年代前半くらいで止まっている。

CIRAには、世界中からひっきりなしに学生や活動家が調査・研究のために訪れる。そのように入替わり立ち替わりCIRAを訪れるものたちが、つねに新鮮な風をCIRAに運び込む。彼ら彼女らは、CIRAに滞在し研究作業をしながら、空いた時間でCIRAの運営を手助けをする。具体

(次頁に続く)



広々とした庭 (上)

小さなピラも一枚一枚封筒に入れて保管 (下)



として決めることになると思います。どの程度までを公正証書に記載できるのか、どの程度までが法的な効力を得るのか等々、現時点でははっきりとしていません。とはいえ、法人化するまでの間は、公正証書によって、文庫センターの財産の法的な保全に、ある程度の保証を与えることができると思います。

現在、法人化検討委員会は、上記のような内容で法人化に至るまでの一時的な対応を検討中です。

(文責：I)

的には、資料の整理や室内の掃除、また版画やポストカードを作ったりTシャツを作ったりもする。それらはCIRAで販売され、売り上げが運営費に充てられる。

マリアンヌは、親子ほどの年の差がある地元の若い活動家に、「ビッグママ」と冗談半分で呼ばれながら、一緒に活動する「仲間」として信頼されている。僕らのブレゼンテーションは、CIRA近くのスクワット・カフェでマリアンヌが企画してくれ、とてもいい集まりになった。実際に日本に来る予定の人がいたこともあり、具



2階の資料室兼学習室

体的な意見交換が出来、ベジタリアン料理を囲んで賑やかに交流した。

マリアンヌは、腹を空かせた僕らにカレーを作ってくれ、交通費

するに至った。

文献センター 自己紹介 7

センターの方向性を十分に話しこめなかったこと、その他にも理由を求められるかも知れないが、いずれにしても、“ばおばぶ”は解散

センターの維持（一九七二年）

“ばおばぶ”が解散し、本の整理を中心とした作業が細々と続けられることになった。“ばおばぶ”のメンバーが去り、備北、弥栄と共同体の活動に取り組み実質的に

の足しにとカンパを渡してくれ、帰りは駅まで車で送ってくれた。さりげなく温かく僕らをもてなしてくれたことに感謝。ちなみに、CIRA Japanも協力した、CIRAの運営資金の問題はほぼ解決したようである。日本の仲間には深く感謝していると伝えてほしいと言われた。

補足ながら、「インフォツアー」の中で、CIRA以外にも自主管理のライブラリーをいくつか見学する機会があった。ドイツ・ハンブルグのスクワット「ロテ・フロラ (ROTE FLORA)」内にある

参加できなくなった尾関弘を除くと、龍さんと私の二人でセンターを維持しなくてはならぬ状態であった。

人と人のネットワーク

文献センターが龍さんのもと富士宮の地に設立されたことが、セ

ライブラリーと、ポーランド・ボズナンのスクワット「ロツブラット (ROZBRAT)」内のライブラリーは、とてもよく整理されていて印象深い。機会があればぜひ訪れてみてください。



ビデオとポスターの保管部屋

ンター持続の最大の成功要因である。言葉を換えるなら、龍さんを核に人と人が結び付けられ続けたことが、結果としてセンターを存続させてきたと言える。つくづくそう思うのである。この感慨はいずれ後述したいが、まずは“ばおばぶ”解散後の足どりを辿ること

にする。

文献類の整理をはじめとするセンター公開の準備作業は、遅々としたものとなり、公開の見通しもつかめないままに集められた書籍の整理が続けられた。でも、孤立してしまっただけではなかった。噂を聞いてセンターを訪れる人がぼつぼつ現われ、整理の仕事を手伝う協力者も出てきた。京都の羽熊直行、名古屋から来て近くに住みついた春木富三、東京のより子さん、静岡の小坂さん、横浜のアントン君といった常連の他に、地味な仕事を手伝ってくれた人たちが、センターに活気を吹きこみ、センターを支えてきた。

こうした状況のもとで、センターの運営および活動に関して次の方針が決められた。

——文献センターの運営は、龍（管理、運営）、奥沢（会計、事務）の責任のもとに有志活動者の支援と協力によって運営する。

なお、文献センターの趣旨にそった広範かつ長期的な発展のために相談役を設け、管理運営全般にわたり助言を受ける。（相談役・大澤正道、長谷川進、向井孝）

——諸般の事情、主要には図書文献類の不備と、受け入れ体勢が整わないことのため、二〜三年の間は原則として非公開とし、この間アナキズムを軸とした基本文献の収集と整理に全力を集中する。

以上が七二年の八月のキャンブから秋にかけての討議によって決定された。具体的な活動としては、文献の収集と整理、センター通信と報告書の発行、月一回の定例会であった。

書庫が出来、本やその他の資料が少しずつでも増え、人が訪れるようになった文献センターは、その運営の困難さを実感として私たちに感じさせ始めた。維持という課題をこえてセンター公開の活動

に取り組むには、我々はあまりにも無力であった。

こうした実状の中で、先に述べた運営・活動の方針が考え出された。それを一言でいい表わせば、責任の所在と、実質的に担って行く活動の枠を確認したものといえる。運営については、かつて会員制あるいは委員会制といった意見が出されたが、それまでの活動のパターンであった自主的参加による活動と運営を原則として踏襲した。

一九七三年・夏のキャンブ

新しい運営体勢のもとに、一つのペースが形成され、基本文献の収集と整理の作業を中心にセンターの活動がささやかに続けられた。七三年に入り、文献センターは三年目を迎えた。

四月にもたれたミーティングで、本の整理その他の作業と取り組んでいた人たちから、センター

の活動について、また個人とセンターの活動の関わり方について問題が提起された。問題の一つ一つを正確に記すことは難しい。ただ、センターがどのような条件のもとで、どのように考え活動することによって現在に至っているかについて、新しい参加者との間に没コミュニケーションが生じることはだけは避けたいと、多くの意見を聞きながら考えた。本稿の意図の出発はここにある。正確な現状把握の一助になれば、と考えている。

龍さんにしろ、私にしろ、文献センターに関連した、大きな抱負はもっている。けれど、状況を無視してあまりに多くを語ると嘘になる。センターを取り巻く状況はいろいろと変ったし、変っていく。その状況のもとで主張し、行動し、出来る限りのことをやっていくしかない。といっても、これを消極的、受動的としか理解されないことから、大変に残念である。（続く）

グラムシ選集 1	グラムシ, アンтониオ	山崎功 (監修)	合同出版社
グラムシ選集 2	グラムシ, アンтониオ	山崎功 (監修)	合同出版社
グラムシ選集 3	グラムシ, アンтониオ	山崎功 (監修)	合同出版社
グラムシ選集 4	グラムシ, アンтониオ	山崎功 (監修)	合同出版社
グラムシ選集 5	グラムシ, アンтониオ	山崎功 (監修)	合同出版社
グラムシ選集 6	グラムシ, アンтониオ	山崎功 (監修)	合同出版社
グラムシ研究 I	アントニオ・グラムシ研究所 (編)		合同出版社
グラムシ研究 II	アントニオ・グラムシ研究所 (編)		合同出版社
青木英五郎著作集 I	裁判官の法意識	青木英五郎	
		青木英五郎著作集刊行委員会 (編)	田畑書店
青木英五郎著作集 II	冤罪とのたたかい	青木英五郎	
		青木英五郎著作集刊行委員会 (編)	田畑書店
青木英五郎著作集 III	陪審裁判のすすめ	青木英五郎	
		青木英五郎著作集刊行委員会 (編)	田畑書店
神山茂夫著作集 第一巻	神山茂夫	栗原幸夫 (編)	三一書房
神山茂夫著作集 第二巻	神山茂夫	栗原幸夫 (編)	三一書房
神山茂夫著作集 第三巻	神山茂夫	栗原幸夫 (編)	三一書房
神山茂夫著作集 第四巻	神山茂夫	栗原幸夫 (編)	三一書房
民族観・民族問題の基礎知識	神山茂夫		世界評論社
民族問題入門	神山茂夫		青木書店
日本に於ける革命運動の基本問題	神山茂夫		民主評論社
民族・階級・独立	神山茂夫		岩波書店
日本革命綱領論創	日本共産党の危機克服と党建設のために		
	神山茂夫		新興社出版社
祖国を愛する道	神山茂夫		岩波書店
激流に抗して	神山茂夫		潮流出版
国家理論	神山茂夫		岩波書店
革命家	神山茂夫		長嶋書房
「自主独立」路線の正体	神山茂夫		刀江書院
日共指導部に与う	国際共産主義の総路線を守って	神山茂夫	刀江書院
続日共指導部に与う	国際共産主義の層路線を守って	神山茂夫	刀江書院
続風雪の中で	神山茂夫		刀江書院
日本共産党とは何であるか	生きた事実で書く共産党戦後史への疑問		
	神山茂夫		自由国民社
天皇制に関する理論的諸問題	神山茂夫	栗原幸夫 (解説)	三一書房
わが遺書	神山茂夫		現代評論社
愛する者へ	神山茂夫獄中記録	神山茂夫 窪田精 (編)	飯塚書店 (次回に続く)

藤本文庫・目録（第3回）

一無政府主義者の回想	近藤憲二	平凡社
わたしの回想（上）父、堺利彦と同時代の人びと	近藤真柄	ドメス出版
わたしの回想（下）赤瀾会とわたし	近藤真柄	ドメス出版
ローザ・ルクセンブルクの世界	伊藤成彦	社会評論社
ローザ・ルクセンブルク その思想と生涯	フレーリヒ、パウル	伊藤成彦（訳）
		御茶の水書房
中江丑吉と中国	一ヒューマニストの生と学問	フォーゲル、ジョシュア・A
		阪谷芳直（訳）
		岩波書店
谷中村滅亡史	荒畑寒村	新泉社
秩父事件の妻たち	新井佐次郎	東京書籍
秩父事件100年	自由民権関係図書目録	鯨岡久（編）
秩父事件〈佐久戦争〉	八千穂夏期大学実行委員会（編）	地方・小出版流通センター
秩父困民党群像	井出孫六	銀河書房
文学の自己批判	民主主義文学への証言	秋山清
		新興出版社
奥宮健之	絲屋寿雄	紀伊國屋書店
性とアナキズム	小川正夫評論集	小川正夫遺稿集刊行会
集治監悲歌	横倉辰次	おりじん書房
甘粕大尉	角田房子	中央公論社
老子直解	山鹿泰治	山鹿文庫
秋山清自選詩集	秋山清	秋山清・八十の会
スペイン市民戦争 I	トマス、ヒュー	都築忠七（訳）
		みすず書房
スペイン市民戦争	トマス、ヒュー	都築忠七（訳）
		みすず書房
競馬と革命と古代史をあるく	一匹狼と囁かれるリッチな男の自伝	
	白井新平	現代評論社
奴隷制としての天皇制	白井新平	三一書房
住民運動の原像	借家人同盟と逸見直造伝	玉川しんめい／白井新平
		JCA 出版
丹波路を行く	鉄が米より先にきた	白井新平
		啓衆新社
大正の知性	大動乱としての大正	白井新平
		啓衆新社
私の見た日本アナキズム運動史	近藤憲二	啓衆新社
日本サンジカリズム運動史	後藤彰信	啓衆新社
山崎今朝弥	森長英三郎	紀伊國屋書店
社会主義運動半生記	山辺健太郎	岩波書店
堺利彦伝	堺利彦	中央公論社
地震・憲兵・火事・巡査	山崎今朝弥	森長英三郎（編）
		岩波書店
遠い声	瀬戸内晴美	新潮社

運営委員会議事録 (抄)

【七月運営委員会】
七月は、富士宮

会十懇親会など)を決めた。

【九月運営委員会】

九月二〇日(土)

【二月総会について】

二月六日(土)に決定した。

会場候補を挙げ、申し込む段取り

をつけた。

内容の大枠を決定した。

総会(活動報告、会計報告、予

算・事業計画、作業報告など)

懇親会 など。

【二〇〇九年版カレンダー】

株式会社化については、体制面、

資金面などの問題への危

惧から延期することに

した。

ただし、当初の目的

である資料の所有関係

については、公正証書

によって法的な所有関

係を明確にできないか

検討する。(本誌2頁参

照)

【二月総会について】

仮の日程と内容(総

【六月運営委員会議事録】

六月二日(土)

■書庫について

富士宮、東京、その他、資料が

どこにあるかを整理、確認する。

■通信を発行

「文献センター通信」七号を次

週(二三日)までに発行する。

■文献センター株式会社化につい

て

定款案をつくって再度検討す

る。

■交流会について

スケジュールを決定した。

一九日 交流会午後四時から

二〇日 説明会、昼食、法人設

立検討

二二日 作業(スケジュールは

通信の七号に掲載した)

■ウェブサイトの更新

まずは現状サイトで更新してお

くこととする。

【七月運営委員会】

七月は、富士宮

での交流会開催のため、お休みに

した。

【八月運営委員会】

八月三〇日(土)

■カレンダーについて

二〇〇九年版の制作をそろそろ

開始する。(A1、1枚)

■法人化について

株式会社化については、体制面、

資金面などの問題への危

惧から延期することに

した。

ただし、当初の目的

である資料の所有関係

については、公正証書

によって法的な所有関

係を明確にできないか

検討する。(本誌2頁参

照)

【二月総会について】

仮の日程と内容(総



八月運営委員会の決定、A1サ

イズをA2サイズに変更すること

を決定した。一〇月末までの完成

を目ざし作業を進める。とりあえ

ず素材を集めることにした。

■ウェブサイト

新しいデザインのサイト(左上

九月末現在のもの)ができたので、

現状データなどの移行をする。

文献センター
ホームページ



アナキズム文献センター通信

第8号

発行/二〇〇八年一〇月一〇日

発行所/アナキズム文献センター

編集/運営委員会

連絡先/東京都新宿区新宿

1の30の12 三月工房気付

郵便振替口座/

00850-3-30010

口座名 A文献センター

Eメール/ info@cira-japan.net

定価/一部一〇〇円